

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077600130		
法人名	医療法人 三井会		
事業所名	グループホーム くましろ		
所在地 (電話番号)	〒830-1102 久留米市北野町八重亀391-1 (電話) 0942-23-4323		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年7月4日	評価確定日	平成20年8月7日

【情報提供票より】(平成20年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 21人, 非常勤 1人, 常勤換算	21.6 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	鉄骨 造り			
	4 階建ての		2 階 ~ 4 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (6月10日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	64 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神代病院、訪問看護ステーション「野いちご」、古賀歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは母体病院すぐ裏の筑後川土手の傍に位置し、うぐいす横丁・ひばり横丁・めじろ横丁の3ユニットで構成されている。玄関アプローチには、木々や花、ベンチがあり、又、木版に入居者の短歌が書いてあったりして訪れる人の心を優しく迎え入れる環境が作られている。病院が併設されているため、医療との密接な連携ができています。それにより大きな安心感が提供され、専門職(理学療法士・作業療法士・音楽療法士等)を活用している。「普通の暮らしを当たり前にごささんと絆を深めたい」という願いを込めた理念のもと、常勤職員(22名中21名)でケアサービスの質向上に取り組んでいる。又、各年代の職員を配置し家庭的なケアと環境作り而努力しながらサービスを提供している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価後、早速スタッフ研修会で検討が行われ、改善計画シートを丁寧に作成した。改善課題は5件あり、その内2件(記録の改善・食事中の自立に向けた介護支援)は、良く改善されている。後の3件(個人に合わせた外出を・本人主体の生活の確保・地域との交流)は、今後も日々のケアの中で推進されていくことを期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価について管理者よりも説明があり、その後ユニット会議において職員が自己評価を行い、それをユニット長が検討している。最終的には管理者が自己評価を完成させ、丁寧に取り組みをしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。入居者3人・家族3人(順番で参加)・民生委員・区長・包括支援センター職員等で構成され、運営状況、行事、サービスの内容、家族や入居者の要望、地域の方々の意見などが議題として討議されている。ホームに対する要望や助言については、サービスの質向上に繋げるよう努力している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 玄関の脇に意見箱が設置されている。家族面会の折には、職員は家族の意見をよく聞くように心がけている。運営推進会議へも家族が参加されており、意見(苦情・不安)を発言されている。その意見は検討し運営やケアに活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 区長や民生委員が、運営推進会議に積極的に参加するようになって地域のホームへの理解も深まっている。夏祭り、敬老会、清掃の日等への参加もし、交流も深めている。地域の小学生や中学生の体験学習なども受け入れ、入居者の社会参加の場にもなっている。又、地域の高齢者の相談をいつでも受けている。今後もより一層地域に密着したグループホームとして運営されることを期待する。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「普通の暮らしを当たり前で過ごし皆さんとの絆を深めていきたい」という理念が作られている。安心して自分らしい豊かな生活を送ることが出来るようにと願いを込め、毎日唱和している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念達成のための基本方針を 個人の尊重 地域との触れ合い 残存機能の維持と掲げている。 については個人の起床時間に応じて食事時間の変更をする等 については散歩中に近所の方から気軽に声をかけてもらい野菜を貰ったり についてはリハビリ訓練 音楽訓練などセラピストによるサービスを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長・民生委員の協力を得て、地域清掃の日に職員が参加したり、夏祭りには地域の人々を招待したり、又、地域の敬老会等に出席したりするなど、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が外部評価についての説明を行い、各ユニット毎に職員間で10日間程かけて自己評価を作成している。外部評価が終わったら1週間以内に職員間で反省会を行い改善策を検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス内容は勿論のこと地域社会へのお願い等も話し合われている。また、家族や入居者の要望、地域の方々の意見や助言があれば、早速取り入れサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政を訪問したり、久留米市介護福祉サービス事業所協議会に参加したりするなど、十分な連携を図りながらサービスの質向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利事業や成年後見人制度については、ホーム内勉強会で学んでいる。現在の入居者で必要な方は居られないが、相談があった場合は援助できる体制にある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム広報紙は年4回発行し、家族に配布されている。また、家族面会時に暮らしぶりや金銭管理の報告・職員の異動等報告している。体調変化時にはその日の内に家族へ報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーとして家族が3名順番で参加し、不安や悩み等を打ち明けられるよう努めている。職員は、家族とコミュニケーションを深めながら、不安や苦情を気軽に話せる場作りを心がけている。		家族の面会時は、コミュニケーションを深めて家族の特技や趣味を聞き出し、ホームでの行事等の時に、披露していただくなど、そのことによりホームへの一層の理解と愛着ができるような家族への支援を強めていかれることを期待する。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は入居者の状態を最優先に考えるようにしており、現場や入居者が混乱しないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	開設時より、職員の採用は性別年齢に関係なく行われている。男性職員が各ユニットに2名ずつ配置され、20歳～64歳の各年代の職員で家族のような人間関係が作られている。ホーム全体で月に1回は勉強会を開催しており、専門知識・技術の習得の意識を高め自己能力向上に教育・支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体研修やホーム勉強会にて人権尊重の教育を実施し記録している。人権週間に行なわれる講演会への参加も促している。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修において接遇・医療・看護・介護研修などに参加している。月1回のホーム勉強会では、ユニット毎に課題を決め発表している。法人外研修も受ける機会が設けられている。又、他グループホームの見学や他ホームからの研修生や研修医も受け入れている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市内のグループホーム協議会にて交流する機会を持ってネットワークを築き、サービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の時には見学会も行なう。同時に判り易いオリジナルの「グループホームへようこそ」という写真入の説明書を用いて、本人や家族へ説明し、安心・納得していただいた上での入居としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に対して常に人生の先輩として敬う気持ちを忘れないように心がけている。料理の作り方や漬物の作り方を教わる等、まず職員が生活を楽しむことにより、入居者も一段と楽しく過ごせると考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の関わりの中で言葉の出にくい人・表出のない人へも本人の希望や意向をちょっとした表情から掴んでいる。言動の中からや生活歴などからも本人の望む生活を見出す努力をしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の気持ちを良く掴み表現された介護計画になっている。職員の和を大切にしながらチームでの入居者本位での介護計画を展開している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的に行なわれると共に、変化があった時には速やかにサービス担当者会議を開催し計画の見直しをしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族からの要望を日頃からよく聞き、お葬式や結婚式などへの出席も職員が付き添ったりするなど、柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を尊重し、ホーム内への往診も行っている。かかりつけ医と緊急時の医療機関との連携も保たれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医との連携を保ち、本人家族の希望に応じて終末期ケアを実施し、今までに2件ホームでの看取りを行っている。家族の希望によって訪問看護ステーションからの訪問看護サービスも利用する等、安らかな余生を送れる取り組みも行なわれている。		重度化した場合や終末期のあり方について家族への啓発が望まれる。また家族会や運営推進会議などでも話題とすることも効果的である。ホームで最後まで安心して暮らせるよう職員の意識・技術を高めることに期待したい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや接遇・個人情報、勉強会や研修を行い意識を高めるようにしている。個人情報は、外に持ち出さないようにオリジナルのホームマニュアルで規定している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間などは入居者の意向を尊重し、個別対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れた食材を使った彩りよくバランスのとれた食事を考え、冷凍食品は使わず近くの魚屋さんで購入したり、ベランダにはトマト・ピーマン等植えられており、食欲をそそる環境もある。入居者と職員も同じ食事をとり、味付けやメニューを話題にしながらさりげなく食事介助をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望があれば毎日入浴できる。時間帯も本人の希望で夜間入浴も応じている。身体の不自由な方はホーム備え付けのバスリフトでの入浴ができる。また、希望に応じて広い入浴場(1階のデイサービスの浴室)での入浴も楽しめるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のやりたいこと・やりたくないことを見極め、掃除や調理・後片付け・洗濯物干し、たたみ等職員と一緒にしている。散歩や買い物も一緒に出かけ、気分転換を図っている。毎週1回音楽療法士による音楽会を実施したり「楽しんで体を動かそうりハ」を理学療法士により指導訓練したりしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って散歩や買い物・花見・ドライブ等の外出支援を行なっている。時には家族へも呼びかけて一緒に外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関やフロアの出入り口ともに鍵はかけず見守っている。夜間は夜勤者のみになるので施錠している。入居者によっては自室を夜間施錠し休まれる方もいるが、職員が施錠することはない。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に3回災害対策マニュアルに沿って、入居者も一緒に関連職員の協力も得て訓練を行なっている。停電時にエレベータ内の閉じ込めが発生した場合を想定しての訓練もマニュアルに沿って行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューや食事形態・栄養バランスなどを法人内の管理栄養士と連携し助言を得ている。入居者1人ひとりの状態に応じ形態やメニュー等を検討し提供している。食事摂取状況や水分量も把握し記録されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の顔が見えるオープンキッチンから、食事を作る音や匂いが漂い家庭的な環境がある。食堂兼居間には季節の花や置物等があり思い思いにゆったりと過ごせる空間作りがなされている。地域の人々と接点となる玄関口は花々が植えられ、「いらっしゃいませ」の看板やベンチなどが置いてあり、来訪者を温かく迎える環境作りに努力している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し、自宅の生活空間に近い環境となるように本人・家族と話し合い、居室作りを工夫している。ベットと整理ダンスはホームで設置しているが、入居者によっては仏壇や思い出の多い品々を飾っている。		